

## 養護教諭の職務ストレスに関する研究

### — ストレッサー、ストレス反応、コーピング及び自己効力感の関連 —

専攻 学校教育学

コース 学校心理学コース

学籍番号 M09036C

氏名 長崎屋 朱里

#### 【問題と目的】

生活習慣の乱れ、飲酒、喫煙、薬物乱用性の逸脱行為、アレルギー疾患など、児童生徒の心身の健康問題が多様化・深刻化している。このように、児童生徒の心身の健康問題が社会問題となる中、健康教育の中核を担う養護教諭に求められる役割期待は大きくなった。ここ15年間でも、養護教諭の職務に係る法律が制定されたり提言がなされたりしている現状にあり、求められる職務が広範化し、職務負担の増大とともに心身の健康にも影響を与えていることが推測される。

先行研究において、養護教諭のストレスを研究したものは少なく（廣瀬・有村, 1999；中西, 2004）、未だ解明されていない点が多い。特に、養護教諭のストレス構造を解明したものは見当たらず、ストレス関連要因の影響過程も明らかにされていない。教員の精神的健康の維持・増進は自己の健康管理や学校経営の面で重要であるが、なにより、児童生徒への支援に直接関わる問題である。特に心身に問題を抱えた多感な児童生徒と関わる養護教諭自身のメンタルヘルスをサポートすることは急務である。そのためにも、養護教諭独自のストレス構造を解明し、それらに基づいた具体的な対策への提言を行う必要性がある。

そこで、本研究では養護教諭のメンタルヘルス向上に役立つ知見を得るべく、養護教諭を対象に職務ストレッサー、ストレス反応のほか、

コーピング、自己効力感を包括的に取り上げ、これらの影響過程を含めた養護教諭のストレス構造とその特徴を明らかにすることを目的とする。本研究は次の研究1、研究2及び研究3により構成する。

研究1では養護教諭の職務ストレッサー尺度を開発する。研究2では、研究1で開発した養護教諭の職務ストレッサー尺度の他、2尺度（ストレス反応尺度、養護教諭の自己効力感尺度）と被検者の属性（学校種・学校規模・経験年数）の関連を明らかにする。研究3では、養護教諭のストレス関連要因の影響過程を検討し職務ストレス構造を解明する。

#### 【方法】

養護教諭のストレス関連尺度に関する先行研究（廣瀬ら, 1999；鈴木ら, 1999；中西, 2004）を基に原尺度を作成し、現職の養護教諭を含む6名の教員に尺度項目が現実に即したものであるかを確認した。13項目を追加し、全51項目の『養護教諭の職務ストレッサー尺度（暫定版）』を作成した。本調査は、郵送法により小学校、中学校、高等学校2府7県の養護教諭809名を対象とした質問紙調査によって実施した。また、属性を尋ねるフェイスシート、ストレス関連3尺度（ストレス反応尺度、自己効力感尺度、コーピング）についても回答を求めた。

養護教諭の職務ストレス構造のモデルに職務

ストレッサーがストレス反応に影響を与えるというプロセスを基本とし、それぞれに緩衝要因であるストレスコーピングと自己効力感が影響を与えるという仮説モデルを構成した。

【結果と考察】

研究1では、これまで明らかにされてきた因子(「時間確保の困難さ」、「児童生徒・保護者との理解の困難さ」)の他に、新たな5因子(「教職員・外部との連携の困難さ」、「情報機器使用による事務処理負担」、「職務の曖昧さ」、「処置対応の責任」、「資源の不足」)が職務ストレッサーとして抽出された。「処置対応の責任」が養護教諭独自の職務ストレッサーであることは言うまでもないが、「教職員・外部との連携の困難さ」、「職務の曖昧さ」も、養護教諭が一人ないし二人であるという立場であることや、他教諭とは異なる専門性をもつことなどから生じる独自のストレッサーであるといえる。また、教育のOA化が図られる今日(文部科学省, 2010)において、「情報機器使用による事務処理負担」が職務ストレッサーとして抽出された。すなわち、研究1において、養護教諭独自のストレッサーを含み、現代の時代を反映した養護教諭の職務ストレッサー尺度が作成することができた。

研究2では、養護教諭が勤務する学校種や学校規模、及び、養護教諭の経験年数と職務ストレッサー、ストレス反応、自己効力感の関係を検討した。その結果、標準規模校勤務者が一番ストレスフルな状況にあること、複数配置によってストレス反応が低減することが明らかとなった。このことから、今日における複数配置の基準は、メンタルヘルスという面において適切とはいえず、今後はさらなる基準の引き下げが望まれる。

また、経験年数によって職務ストレッサーやストレス反応、自己効力感に差がみられることが明らかとなったことから、養護教諭を複数配置する際には、

経験年数による組み合わせを考慮することの必要性を示したといえる。

研究3では、職務ストレッサーを軽減させることと、自己効力感を高めることによってストレス反応を低減させることができるということが示唆された (Figure1)。

したがって、養護教諭のメンタルヘルス向上のためには、職務ストレッサーや自己効力感に着目した研修の充実をはじめ、周囲の理解を含めた支援の促進、複数配置基準の引き下げ等が必要であると考えられる。

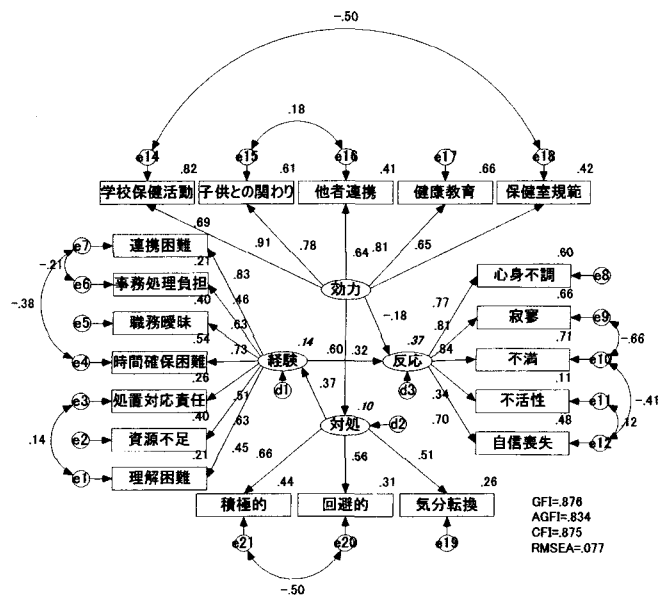


Figure 1 構造仮説モデル

【引用文献】

廣瀬春次・有村信子 1999 養護教諭の精神的健康に及ぼす職場ストレッサーと職場サポートの影響 学校保健研究 41 : 74-82.  
 中西三春 2004 養護教諭の職業性ストレスと精神的健康—養護教諭の職業性ストレス尺度の作成— 学校メンタルヘルス 7 : 25-33.  
 鈴木邦治・池田有紀・河口陽子 1999 学校経営と養護教諭の職務IV—養護教諭のキャリアと職務意識— 福岡教育大学紀要 48 : 23-40.